

札幌市交通事業経営計画（H26～H30）の取組結果

1 収支改善目標の達成状況

【地下鉄事業の財政指標】

項目	内容	結果	金額
経常収支	年平均50億円以上の黒字を維持	○	年平均84.3億円
累積欠損金	2,000億円以下まで縮減	×	2,188億円
資金不足	発生させない	○	資金残高8.1億円
企業債残高	2,800億円以下まで縮減	○	2,612億円

【路面電車事業の財政指標】

項目	内容	結果	金額
経常収支	赤字額を年平均55百万円以下に抑制	○	年平均30.8百万円
累積欠損金	800百万円以内に抑制	○	409百万円
資金不足	2.4億円以上の資金残高を保有	○	3.6億円

【地下鉄事業の要因分析】

要	因	分	析
経常収支・資金不足	<ul style="list-style-type: none"> 乗車人員の増に伴う増収 人件費、経費の縮減 企業債利息の減 会計制度変更に伴い、健全化計画に受けていた財政支援目的の補助金（資本費負担軽減補助）について利益剰余金整理額として一括して累積欠損金の補填にあてる予定であったが、より適正な処理である長期前受金戻入として各年度毎に収益化していく方法に変更したため。 		
累積欠損金	<ul style="list-style-type: none"> 会計制度変更に伴い、健全化計画に受けていた財政支援目的の補助金（資本費負担軽減補助）について利益剰余金整理額として一括して累積欠損金の補填にあてる予定であったが、より適正な処理である長期前受金戻入として各年度毎に収益化していく方法に変更したため。累積欠損金が2,000億円以下になる年度は後年次にずれるものの、確実に縮減するものであり、経営に影響を与えるものではない。 		
企業債残高	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な事業実施による発行額の抑制や、資金収支を勘案した償還計画の見直し（借換予定分の前倒し償還）などにより、企業債残高の縮減に努めたため。 		

【路面電車事業の要因分析】

要	因	分	析
経常収支	<ul style="list-style-type: none"> 乗車料収入が堅調に推移 		
累積欠損金	<ul style="list-style-type: none"> 計画当初は運賃本改定を2015年10月を想定していたところ、ループ化の開業の遅れなどにより2017年4月まで実施が遅れたものの、乗車人員が計画を上回って推移したため。 		
資金不足	<ul style="list-style-type: none"> 建設債利息の減 低金利の傾向にあったことから借入利率が低く抑えられたこと、事業費精査による発行額の減により、支払利息が減少したため。 		

2 施設・設備の改良に関する取組結果

取組		H25年度末 (計画前)	H30年度末 (目標)	＜H30年度末（計画期間終了時）実績＞	
				H30年度末 (実績)	備考 (目標の進捗率)
安全の確保	車両とホームの隙間対策 (ホーム) 【地】	5か所	122か所	122か所	H28完了
	車両とホームの隙間対策 (車両) 【地】	0編成	20編成	20編成	H27完了
	新型車両の導入の推進 (地下鉄・東豊線) 【地】	-	20編成	20編成	H28完了
	地震対策の推進 (高架駅の耐震補強工事) 【地】	-	4駅	3駅	真駒内駅耐震工事（～R2予定） (75%)
	火災対策の推進 (防火シャッター・防火戸の設置) 【地】	13駅	39駅	38駅	(97%)
	エレベーターの更新 【地】	3基	46基	41基	(89%)
	エスカレーターの更新 【地】	-	39基	33基	(85%)
快適なお客様サービスの提供	改札機のIC対応 【地】	IC化率 72%	IC化率 100%	IC化率 100%	H29完了
	路面電車情報利活用システムの導入 【路】	-	24 停留場	24 停留場	H27完了
	トイレの改修 【地】	残8駅	残0駅	残0駅	H29完了
	トイレの設備改良 【地】	0駅	49駅	53駅	H30完了
	制振軌道化 【路】	制振化率 62%	制振化率 73%	制振化率 68%	(55%)
まちづくりへの貢献	照明設備のLED化(駅照明設備) 【地】	1駅	17駅	14駅	(82%)
	照明設備のLED化(出入口標識) 【地】	52か所	72か所	72か所	H27完了
	照明設備のLED化(ホーム駅名標識) 【地】	20駅	49駅	24駅	残り25駅は、 H28に非電照化を実施
	照明設備のLED化(電照広告枠) 【地】	9駅	18駅	32駅	H26完了
	太陽光パネルの設置 【地】	-	1か所	1か所	H26完了
	回生電力貯蔵装置の増設 【地】	2か所	4か所	3か所	(50%)
	より利用しやすい環境整備 (階段スリップ防止ゴム) 【地】	残23駅	残0駅	残0駅	H27完了
	より利用しやすい環境整備 (床と柱の識別化) 【地】	残11駅	残0駅	残0駅	H26完了
	より利用しやすい環境整備 (既存手摺改修) 【地】	残12駅	残0駅	残0駅	H27完了
	停留場のバリアフリー対応の推進 【路】	-	11面	37面	H28完了（継続実施中）
新型低床車両の導入の推進 【路】	3編成	10編成	4編成	(14%)	
の経営強化	新規広告枠媒体の導入 (大通駅デジタルサイネージ設置) 【地】	-	1区画	1区画	H27完了

※【地】は地下鉄、【路】は路面電車